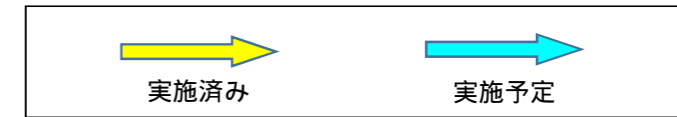


平成31年度千葉県営水道事業中期経営計画事業等進行管理総括表

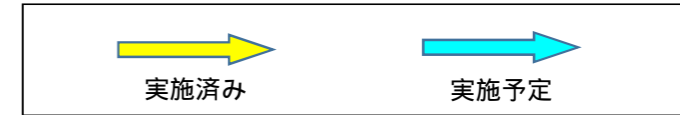
基本目標1 「強靱」な水道の構築



主要 施策	施策により期待 される成果	主な取組	取組内容	達成指標 達成目標	スケジュール					担当課
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
(1) 安定給水の確保 (2) 浄水場事故割合 管路の事故割合<B204>	成果指標 (1) ハッ場ダム完成による 水源の確保 (2) 安定給水度 浄水場事故割合 管路の事故割合<B204>	施策(1)取組 水源の安定化	国から暫定的に割り当てられている水源への依存を解消し、安定した自己水源を確保するため、ハッ場ダム建設事業(平成31年度完成予定)に引き続き参画していきます。 (31年度の取組計画) 安定給水に必要な水源を確保するため、ハッ場ダム建設事業に引き続き参画するとともに、平成32年度からのハッ場ダムに係る水利権の許可に向け、協議、申請を行っていきます。 (31年度の当初予算) 1,363,087千円	達成指標 ハッ場ダム建設事業への参画 達成目標 ハッ場ダム建設事業への参画 (31年度の達成目標) ・ハッ場ダム事業への引き続きの参画 ・ハッ場ダムに係る水利権の申請 (29年度の達成実績) ハッ場ダム事業への引き続きの参画	ハッ場ダム建設事業への参画					計画課
					成果目標 (1) ハッ場ダムに係る 水利権の許可 (2) 0(件数/箇所) (毎年度) 1.6(件/100km)以下 (毎年度)	(31年度の成案目標) (1) (2) 0(件数/箇所) 1.6(件/100km)以下	(29年度の成果実績) (1) (2) 0(件数/箇所) 0.9(件/100km)	達成指標 1) ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備 2) 福増浄水場浄水処理改善 3) 柏井浄水場東側施設 浄水処理改善 達成目標 1) 土木構造物及び建築物の 建設完了 2) 新たな脱水施設の稼働 3) 二次ろ過施設の稼働 (31年度の達成目標) 1) 高度浄水処理施設築造工事 及び急速ろ過池築造工事の完成 2) 排水処理施設建築工事の完成 3) 二次ろ過棟建築工事の着手 (29年度の達成実績) 1) 薬品沈でん池築造工事等の 着手 2) 機械脱水施設整備工事の着手 3) 実施設計の一部完了	ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備 本体工事着手 平成35年度の稼働に向けた施設整備	
(1) 安定給水の確保	施策主務課：計画課	施策(1)取組 浄・給水場施設の 更新・整備	浄・給水場は昭和30年以降に集中して建設されており、その多くの施設で老朽化が進行していることや、水源の水質悪化が進んでいることから、老朽化が著しい浄・給水場等について、計画的に施設の更新・整備を進めていくとともに、水源水質の変動や悪化に対し安定した浄水処理を行い、より一層の安全性を確保するため、施設の改善を行っていきます。 (31年度の取組計画) 1) ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備事業については、これまでに発注した高度浄水処理施設築造工事等の着実な進捗を図るとともに、薬品注入棟建築工事等に着手し、平成35年度の稼働に向け、工程管理を適切に行っていきます。 ・ちば野菊の里浄水場(第2期)施設整備事業のうち薬品注入棟建築工事等 2) 福増浄水場の機械脱水施設整備については、平成32年度の稼働に向け、排水処理施設建築工事等の工程管理を適切に行っていきます。 ・福増浄水場機械脱水施設整備に伴う建築工事 3) 柏井浄水場東側施設については、実験による処理条件の見極めに時間を要したことなどの工程の遅れにより、二次ろ過施設の稼働は、平成35年度を予定しており、5か年の達成目標である平成32年度中の稼働は困難な状況にあります。なお、平成31年度の取組計画としては、二次ろ過棟建築工事に着手し、工程管理を適切に行っていきます。また、水処理工程全体の浄水処理改善を図るため、平成30年度に策定した実験計画に基づき予備実験を行います。 ・柏井浄水場東側施設水処理改善に伴う二次ろ過棟建築工事 (31年度の当初予算) 8,079,725千円	実施設計	福増浄水場浄水処理改善 機械脱水施設の整備及び二次ろ過施設の導入検討					計画課
				実施設計	実施設計 (実地調査)	実施設計 (詳細設計)	柏井浄水場東側施設浄水処理改善 二次ろ過施設の整備 実験プラントの建設に向けた予備実験			

注)指標名の 内は、水道事業ガイドラインの指標番号を示しています。

基本目標1 「強靱」な水道の構築



主要 施策	施策により期待 される成果	主な取組	取組内容	達成指標 達成目標	スケジュール					担当課
					平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
① 安定給水の確保		施策(1)取組 浄・給水場設備の 更新・整備	<p>浄水処理や送・配水の状況を常時監視している監視制御装置、送・配水を行うポンプ設備、水道水の安全性の確保に必要な塩素注入設備や停電時に設備の運転を継続させる自家発電設備等、浄・給水場設備について、経年劣化等の状況を踏まえた更新及び停電に備えた整備を計画的に実施していきます。</p> <p>(31年度の取組計画) 浄・給水場設備の更新・整備を進めていきます。 当該年度の主な設備更新は、以下の3件を行います。 ・柏井浄水場三拡ポンプ回転数制御設備の更新(28~31年度) ・幕張給水場監視設備の更新(29~31年度) ・幕張給水場配水ポンプ回転数制御設備の更新(29~31年度)</p> <p>なお、その他に実施予定であった2件の更新について、木下取水場自家発電設備更新は、自家発電設備の整備方針の見直しに伴い再設計が必要となったこと、また、成田給水場次亜塩素酸注入設備更新は、配水系統毎に次亜塩素酸を注入できるよう見直しが必要となったことから、それぞれ平成33年度以降の実施となる見込みです。これにより、5か年の目標達成は困難な状況となっています。</p> <p>(31年度の当初予算) 11,809,518千円</p>	<p>達成指標 設備の更新・整備進捗率 (当年度までの完了件数 / 5か年の計画件数)</p> <p>達成目標 100%(18件)</p> <p>(31年度の達成目標) 61.1%(11件/18件) (4年間分累計)</p> <p>(29年度の達成実績) 26.3%(5件/19件) (2年間分累計)</p> <p>* 28年度末に1施設(市原分場の井戸)を廃止する方針となったため、30年度以降は19件18件に減少。</p>	設備の更新					浄水課
		<p>老朽度や重要度等を勘案し、目標使用年数を踏まえ、引き続き小中口径管(管径500ミリメートル未満の管)の更新を進めるとともに、大口径管(管径500ミリメートル以上の管)の更新、基幹管路の整備を行っていきます。</p> <p>ア) 鋳鉄管更新工事(小中口径管) 東日本大震災による管路破損等の教訓を踏まえ、湾岸埋立地域の管路を優先して更新するとともに、災害時の広域避難場所や医療拠点等重要施設へ給水する管路、強度が低下するおそれのある管路や赤濁水の発生が懸念される管路等について更新していきます。</p> <p>イ) 大口径管路更新工事 ダクタイル鋳鉄管よりも強度が低い高級鋳鉄管を使用した大口径管について、重要度及びバックアップの可否を評価基準とした優先順位を付けて更新を進めていきます。</p> <p>ウ) 基幹管路の整備 より安定的な給水を確保するため成田国際空港に供給している重要な基幹管路である北総~成田線について、新たに第二北総~成田線を整備していきます。</p> <p>ア)~ウ)以外に、東京外かく環状道路や下水道等の公共工事に伴い支障となる既設管路の移設等を行います。また、給水区域内への適正かつ安定的な給水を確保するため、配水管理テレメータの更新・整備を行います。</p> <p>(31年度の取組計画) 管路の更新(布設替)・整備(新規布設)について、以下の工事を実施します。 ア) 鋳鉄管更新工事(小中口径管) 77.1km イ) 大口径管路更新工事 1.2km ウ) 基幹管路の整備(第二北総~成田線) 0.6km 上記以外の管路工事 管路の更新工事(下水道や外かん事業の切廻し等) 12.0km 管路の整備工事(ニュータウン地区布設等) 8.6km</p> <p>(31年度の当初予算) 35,585,002千円</p>	<p>達成指標 ア) 小中口径鋳鉄管の更新延長 イ) 大口径管の更新延長 ウ) 基幹管路の整備延長</p> <p>達成目標 ア) 353.0km(5か年累計) イ) 8.2km(5か年累計) ウ) 第二北総~成田線の供用開始</p> <p>(31年度の達成目標) ア) 77.1km イ) 1.2km ウ) 0.6km</p> <p>(29年度の達成実績) ア) 64.2km イ) 0.3km ウ) 0.9km</p>	鋳鉄管更新工事(小中口径管) 大口径管路更新工事 基幹管路の整備					給水課	

注)指標名の 内は、水道事業ガイドラインの指標番号を示しています。